

日本地球電気磁気学会会報(第76号)

1977年12月19日

日本地球電気磁気学会

連絡先 東京都文京区弥生2丁目11の16(〒113)

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111(内線6476)

1. 第62回総会ならびに講演会

第62回総会ならびに講演会は、11月8日～11日の4日間、京都大学工学部のお世話により、御所の林越しに北山を遠望できる京都府立勤労会館で開催されました。10日午後には、佐藤哲也運営委員を司会者として、「生物社会の安定性」(寺本英氏:京大理学部)、「膨張宇宙論」(佐藤文隆氏:京大基礎物理学研究所)と題する特別講演が行われ、記念撮影の後、下記のような次第で総会が開かれました。

- (1) 開会の辞(松本 紘会員)
- (2) 議長選出(小林会員)
- (3) 大会委員長挨拶(加藤 進大会委員長)
- (4) 運営委員会報告(小川利紘運営委員)(次項Ⅱ参照)
- (5) 田中館賞授与

第73号 鶴田浩一郎会員

「VLF波方向探知装置の開発」

第74号 伊勢崎修弘会員

「日本海の地磁気異常の研究」

- (6) 田中館賞審査報告(前田委員長)
- (7) 学会委員長挨拶 (")

(8) 議 事

(イ) 次期（53年春）開催地の確認

議長より、「昨年春の総会で提案された通り東京での開催を確認したい」との発言があり、担当機関（東大理学部）を代表して河野会員より「会場が東大農学部と地震研究所に分れるが、できるだけのお世話をしたい」旨の返事がありました。

(ロ) 次々期（53年秋）開催地

荒木会員より「10年ぶりで仙台でお願いしたい」との提案があり東北大学理学部を代表して上山会員から承諾の発言がありました。

(ハ) 地球電磁気学会若手の会からの提案

若手の会代表高橋主衛氏（東北大）より、若手の会の活動状況についての説明があり「夏の学校や機関誌発行のための費用として年間10万円程度を学会から支出してほしい」旨の提案がありました。この提案に対する討論を行い、出された賛否両論の意見を、運営委員会で整理して、若手の会のための費用を来年度予算案に計上するかどうかを決めることになりました。

(9) 謝 辞

参加者を代表して、上山会員から今回の総会と講演会をお世話下さった京大工学部の方々に謝辞が述べられました。

(10) 閉会の辞

今回の講演会の特筆すべき出来事は、講演取消しが皆無だったことです。また過密なスケジュールにもかかわらず、プログラム進行の遅れがほとんどなかったのも珍しいことでした。これらには、北村プログラム委員の発案による講演時刻指定が寄与していると思われます。

講演会進行の円滑化に、今後とも、皆様方のご協力をお願いいたします。

なお、予稿集（1,500円）が少し残っています。ご希望の方は学会宛お申し込み下さい。

II. 運営委員会報告

(1) 科学研究費審査員候補者

運営委員による選挙の結果、学会推薦の科研費審査員候補者を下記のよう決めました。

超高層物理関係	小口	高	西田	篤弘
固体地球関係	行武	毅	小嶋	稔
複合領域プラズマ理工学		大家	寛	西田 篤弘

(2) 科研費問題小委員会の発足

I M S 終了後の特定研究のテーマ、あるいは、科研費以外の特別研究プロジェクトを検討するため、下記メンバーからなる小委員会が発足しました。

大家 寛（小委員長）、佐藤 哲也、北村 泰一、河島 信樹、
小嶋 稔、西田 篤弘、柿沼 隆清、甲斐 敬造

なお、この小委員会では、当学会から推薦する科研費審査員候補者の選出方法についても、検討を加えることになっています。

(3) J G G 誌の刊行補助金

文部省の今年度の J G G 誌に対する刊行補助金は 1 8 1 万円ときまりました。（12月10日交付）

(4) Advances in Earth and Planetary Sciences（仮称）発行

学会誌刊行センターより、「現在 J G G および J P E（Journal of Physics of Earth）両誌で出している特集号（国際シンポジウムのプロシーディング）を中心に、上記題名の単行本シリーズを出版していきたい」との提案があり、検討した結果、これを認めることになりました。

これについて、刊行センターと学会委員長の間に覚書が交される予定です。

(5) J G G 掲載論文の著作権

J G G 掲載論文の著作権が学会に属することは、投稿者の間で了解されていると思いますが、上に述べたような単行本シリーズ発行となると、著作権問題がおこる可能性もでてきます。そこで、この際、従来の暗黙の了解を再確認し、J G G 誌にその旨明記することになりました。

(6) 関連他学会の学会講演

今まで当学会講演会での論文発表には、著者の少くとも 1 人が当学会員であることを条件にしていたが、今後は、地球物理関連学会の会員には論文発表を認めることになりました。

(7) 予稿メ切期日

今年、春の総会で、近藤会員より「予稿メ切を講演申込メ切より遅らせたかどうか」との提案がありました。運営委員会でも賛否両論がでましたが、「プログラム編成に予稿を読む必要がある」「予稿メ切を遅らすと見込みによる講演申込みがふえる」等の理由により、今まで通り、予稿は講演申込みと同時にメ切ることになりました。

(8) 田中館賞内規

今まで田中館賞について成文化された規則がなかったので下記のような内規を決めました。ただし、この賞は本来若い研究者を対象として設けられたものですから、内規には明記していないが、今後もその方針に従う旨、学会委員長から説明がありました。

す。

田 中 館 賞 内 規

昭和52年10月12日制定

れ
著
了

第 1 条 田中館賞を本学会に設ける。田中館賞は本学会員の中で、地球電気磁気学において顕著な学術業績を挙げた者に授け、これを表彰する。

員
に

第 2 条 受賞者は次の各項目の手続きを経て決定する。

(一) 受賞候補者は、本学会員が委員長に推薦する。

(二) 委員長は推薦を受けた候補者につき、評議員会にはかる。評議員会は議決により受賞者を決定する。

第 3 条 田中館賞は賞状およびメダルとし、総会においてこれを授与する。

せ

同内規施行に関する了解事項

(昭和52年10月12日運営委員会)

た

1. 田中館賞候補者の推薦は文書によって総会開催日の1カ月前までにおこなうものとする。
2. 委員長は推薦者に対して候補者の主要論文の別刷など選考に必要と認められる資料の提出を求めることができる。
3. 評議員会は受賞者の選考に際し、受賞候補推薦者もしくはその代理の者の評議員会への出席を求め、説明を受けることができる。

な
ら
旨、

(9) 運営委員の辞退権

現在、当学会の直接的な運営は運営委員会が行なっています。すべての会員が平等の資格で参加している学会ですから、一部の人に過重な負担をかけることなく、できるだけ多くの人々が運営に参加するのが望ましいのですが、一方、運営委員にはある程度の経験が要求されるのも事実です。

この二つを勘案して、三期（六年間）連続して運営委員をつとめた人は、一期だけ辞退することができ、また、通算五期（十年間）つとめた人は、永久に辞退することができることになりました。このルールは次回の役員選挙から適用されます。

00 若手研究者の就職問題

若手研究者の就職問題はますます深刻になってきています。運営委員会でもこれについて議論し、①就職に関する情報の流通をよくする、②当学会に関係あるが、まだ門戸を開いていない新しい就職先を開拓する、③新設される地球科学科（大学）に地球電磁気や超高層物理の部門を設ける、④高校の地学に地球電磁気学関係の教材をより多く取り入れるようにする等の努力が必要であるとの意見が出ました。これら（特に②③④）の実現には、評議員会を通じての関係諸機関への働きかけが有効と考え、11月9日の評議員会に対しその旨要望しました。

この問題は、学会および学問の将来を左右する重要性を持ってしますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いする次第です。

III. 新入会員

前回会報記載後の新入会員は、下記の通りです（※は学生会員）

鈴木 健（岡山大）	藤田 正晴（電波研鹿島）
長井 嗣信（地磁気観測所）	野崎 憲朗（電波研平磯）
船木 実（極地研）	今井 一雅 [※] （電通大）
桂 郁雄 [※] （京大理）	林田 明 [※] （京大理）

国内会員総数 479名

IV. 第63回総会ならびに講演会の開催について

来年春の学会は東京大学理学部のお世話で下記の通り開催されます。

- (1) 期 間 昭和53年5月16日(火) - 19日(金)
- (2) 会 場 東京大学農学部および地震研究所
- (3) 講演申込・予稿集メ切 昭和53年3月31日 北村泰一(九大理)宛

なお、今後、講演会におけるビラおよびオーバーヘッドプロジェクターの使用を原則として禁止しますので、ご注意下さい。

V. 会員名簿の発行について

新しい会員名簿(現在のは昭和48年3月発行)の発行を計画しています。その原稿を同封の住所録作成用カードにご記入のうえ学会事務所あてに1月31日までにご返送下さい。全会員の原稿がそろわぬと印刷にかかれぬので絶対にお忘れにならぬようお願いいたします。

VI. 国際会議開催について

(1) 当学会後援の下記二つの国際会議が開かれます

- | | |
|---------------------|---------------|
| ① GDP 国際会議 | ② プラズマ物理学国際会議 |
| 期日 昭和53年3月13日 - 17日 | 昭和55年6月 |
| 場所 日本学術会議 | 東京都内 |
| 問い合わせ先 小林和男会員 | 河島信樹会員 |

(2) International Conference "CORE DYNAMICS"

上記の conference の registration form が届いています。興味のおありな方は河野(東大理)までご連絡下さい。主な内容は下記のとおりです。
場所, 日時: Budapest, Hungary, 1978年6月26日 - 7月1日
Convenors; Prof. G. Barta (Hungary), Prof. A.H. Cook (U.K.)

Sponsors : Hungarian Nat. Committee for Geodynamics, IGC (WG5)

予稿しめきり : 1978年3月15日

予稿送りさき : Dr. A. Meskó, Dept. of Geophysics, Eötvös University,

1083 Budapest, KunBéla tér 2, HUNGARY

(3) IUGG臨時総会およびIAGA学術総会に関する報告 福島 直

1977年8月6日に英国Durham市で、「中国加盟問題」を議題としてIUGG臨時総会が開かれた。この結果、中華人民共和国が正式にIUGG加盟国になった。台湾はIUGG加盟国という立場を失なうことになったが、IUGGおよびその傘下各Associationsが開く学術的会合には、台湾の科学者も個人の資格で参加できる。今夏のIAGA学術総会には中国科学者は準備期間の不足などのため出席せず、また台湾からの出席者もなかった。

IAGA学術総会は1977年8月22日-9月3日、米国ワシントン州シアトル市のワシントン大学構内でIAMAPと合同で開催され、総数約1,000名の参加者、約1,000編の発表論文が提出され盛会であった。日本からも約20名参加している。この会議ではIAGA/IAMAP合同シンポジウムの他に、IAGAとIAMAPがそれぞれに別個に多くのセッションを開いた。発表論文数から云えば、比率は約7:3でIAGA関係発表論文がずっと多かった。講演予稿アブストラクトは、EOS誌1977年8月号にも掲載されている。各セッションのハイライトをも記した会議報告集は来年春には刊行される。またシンポジウムやセッションによっては発表論文をまとめて専門誌に掲載する計画を立てており、JGG誌もいくつかのものを引受けている。

IAGA学術総会では研究発表のほか、2年後にオーストラリア国キャ

ンペラ市で開かれる I U G G 総会に際して、I A G A として取りあげるシンポジウム題目なども議論した。I A G A としては SCOSTEP と共同して、I U G G キャンペラ総会の直前にメルボルン郊外の La Trobe 大学で数日間 I M S シンポジウムを開催することもきめた。また 1973 年の京都会議のときに議論された I A G A 内部組織改革にともない、これまでの定款が現情に適さなくなったので、定款改定と内規作成をすることが 1975 年の Grenoble 総会で採り上げられ、今度のシアトル臨時総会（8 月 2 2 日）で新定款と内規が採択された。また 1979 年のキャンペラ総会の次には、1981 年 8 月に英国のエジンバラ市で第 4 回学術総会を開催する予定となった。

VII. 新刊書案内

International Reference Ionosphere 1977

by K. Rawer, S. Ramakrishnan and D. Bilitza

URSI-COSPAR の合同運営委（議長：K. Rawer）によるもので、約 60 ページ。URSI 発行，1977。内容は、

- (1) 電子密度・電子湿度・イオン温度・イオン組成の高度プロファイルを計算する公式。
- (2) 中・低緯度，低・高太陽活動度，夏・冬・春秋分，日中・真夜中，の諸条件を表わすパラメタの表。
- (3) 高度プロファイルを計算するコンピュータ・プログラム（ALGOL, FORTRAN）付。

価格は郵送料こみで \$ 3.50，航空便希望の場合は \$ 0.50 追加のこと。

注文先は， URSI Secretariat Rue de Nieuwenhove 81,
B-1180 Brussels, Belgium

<寄贈出版物>

下記の雑誌は整理されておりますので、ご興味のある方は事務局にお問合せ下さい。

Australian Journal of Physics 17(1974)No.6+

BMR Journal of Australian Geology and Geophysics 1(1976)+

Geomagnetism i Aeronomiya 14(1974)No.6+

Izvestiya Akademii Nauk Turkmenskoi SSR (1975)No.1+

Space Science Reviews 18(1975)No.3+

Izvestiya Akademii Nauk SSSR, Physica Zemri (1977)No.3+

地球物理学報(中国地球物理学会) 18(1975)No.1

訃報

等松隆夫会員は、秋の学会講演会期間中に病に倒れられ、入院加療の甲斐なく11月19日、ついに永眠されました。ご存知の通り、同会員は超高層大気中の原子分子過程研究の第一人者として国内外で活躍され、最近では、MAP(Middle Atmosphere Project)の責任者として、多忙な毎日を送っておられました。また、JGG編集委員、運営委員通算4期として当学会の発展に大きく貢献してこられました。引き続いてのご活躍、ご尽力が期待されていた時だけに、突然のご逝去は痛恨の極みであります。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を祈りたいと存じます。

日本地球電気磁気学会 住所録作成用カード

氏名	19 年 月 日生
ローマ字綴(姓,名の順)	学位 (19 年) 大学

学 歴	学校	科	19 年 月卒業・中退		
	大学	学部	学科	19 年 月卒業・中退	
	大学院	系	科	修士課程	19 年 月修了・中退
				博士課程	19 年 月修了・中退

勤務先 (部・課名, 職名, 所在地, 電話も記入)

□	□	□	□	—	□	□
---	---	---	---	---	---	---

市外局番 市内局番 番号 内線

電話 — — ()

自 宅 (〇〇方もお忘れなく)

□	□	□	□	—	□	□
---	---	---	---	---	---	---

市外局番 市内局番 番号

電話 — —

連絡先 勤務先 自宅

送り先：〒113 東京都文京区弥生2-11-16
 東京大学理学部地球物理学教室内
 日本地球電気磁気学会